

九頭龍神社(本宮)、例祭

九頭龍神社は、757年に修行僧の万巻が手名付けたとされ、この名前を持つ9頭の頭の龍を祀っています。この伝説的英雄がおとなしくさせるまで、九頭龍は芦ノ湖の沿岸に住む人々に恐れられており、人々はその怒りから逃れるために、娘たちをこの毒を持つ生き物に生贄として捧げていました。九頭龍の恐怖の時代を終わらせようと決意した万巻上人は、芦ノ湖の水の中に（現在神社の近くの岸から沖へすぐのところに立っている小さな鳥居がある場所に）石壇を置き、三日三晩座って祈禱しました。このような手強い敵を目の当たりにして、龍は観念し、最終的に人々が毎年お祈りをして彼を称える限り、この地域の守り神になることを約束しました。この約束は、6月13日に毎年開催される九頭龍祭りという形で守られ、その一方で毎月13日にはより簡素なお祭りが行われています。この儀式には、元箱根で祭りの特別ボートに乗って参加することができ、ここから神社までは20分ほどです。ただし、九頭龍は恋愛成就を求める人々の間で特に人気なので、ボートはかなり混雑する場合があります。神社には徒歩で、プリンス箱根芦ノ湖ホテルから少し歩いて、行くこともできます。

